

# 1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月25日

**【評価実施概要】**

事業所番号	1271100719
法人名	株式会社ティ・アイ・サポート
事業所名	グループホーム「ふるさと・木更津」
所在地	〒292-0044 千葉県木更津市太田4-1-21 (電話) 0438-23-5119

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年12月25日	評価確定日	4月9日

【情報提供票より】(19年12月10日事業所記入)

**(1) 組織概要**

開設年月日	平成16年3月31日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤 2人, 非常勤 6人, 常勤換算 3人	

**(2) 建物概要**

建物構造	木造
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

**(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)**

家賃(平均月額)	92,000円	その他	食費40,000,水道光熱費12,000,管理費10,000,実費など	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	134 円
	または1日当たり 1,334 円			

**(4) 利用者の概要(12月10日現在)**

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 76 歳	最低	61 歳	最高	91 歳

**(5) 協力医療機関**

協力医療機関名	はぎわら病院 きっかわクリニック 勝呂歯科医院
---------	-------------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

**【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】**

木更津市太田の閑静な住宅街の中の、洒落た作りの建物がグループホーム「ふるさと・木更津」である。高齢者施設に詳しい設計士が作った同ホームは、角の多い作りになっており、認知症高齢者が場所を認識しやすいとのことである。開所後4年目となり、地域にもだいが受入れられ、交流が進んできている。管理者は、一方的なお世話にならないよう、どんなことでも入居者が自主的に行動を起こせるよう、細かいところまで気を配っている。家庭らしさを大切に、自然体で生活することをモットーとしている温かいホームである。

**【重点項目への取り組み状況】**

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で指摘された室温が少々低いという点については、臨機応変に対応することにした。口腔ケアは、就寝前のみだったのを毎食後行うようにした。夜勤のローテーションは、19時間勤務だったのを15時間勤務に変更した。休憩時間は、8時間勤務中1時間は必ず取れるようにした。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は主として管理者が中心となって作成した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は3ヶ月に1回の割合で開催している。参加者は清見相里地区・太田地区それぞれの自治会長、木更津市高齢者福祉課・介護保険課・地域包括支援センター職員、家族代表、ホーム職員ら。話し合いの内容は、ホームの生活ぶりや行事、事故等の報告、空き室状況などである。この会議を通じて、グループホームへの理解が少しずつ進んできている。家族や地域住民からの意見・要望はそれほど出していない状況である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見・苦情は、主として面会時に職員が意識的に声かけし、話を聞くようにしている。大きな不満やトラブルに発展する前に、ささいなことでも家族の意見を聞き、ケアに反映させるように心掛けている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	ホームは二つの地区(清見相里地区・太田地区)にまたがった場所に位置しているの、両方の自治会と付き合いがある。地域の行事や草取りなどに参加している。今後は、入居者が散歩する際、ゴミ拾いを行うことも計画している。近隣の商店とは顔なじみの仲になり、お弁当屋さんでは高齢者向けにおかずを柔らかくしてもらったりしている。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「社会との関係が良好に保たれる環境を築き、安心、自信、笑顔のあふれるその人らしい充実した生活を送って頂けるよう、思考と試行をくりかえす」である。設立時、職員みなで考えて作成した。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や申し送りなど、ケアの有り方を検討する際には、必ず理念に立ち返って考え、実行している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域には少しずつとけこみ始めているところである。ホームの理解も進み、地域行事に参加したり、草取りを行ったりしている。商店とも顔なじみの関係となり始めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価で指摘を受けたところは暫時改善を行っている。しかしながら自己評価は管理者が中心となって作成され、現場職員の意見があまり反映されていない。		自己評価はケアサービスを振り返るよい機会であるので、管理者・職員が共に話し合い、作成することが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回、実施している。地域の自治会長、市職員、家族らが参加している。議題はホームの現状報告が中心で、理解が進んできたと感じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	木更津市介護保険運営協議会委員として協力を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度、請求書に同封して入居者の写真と様子を伝える手紙を送っている。なにか変化があった時は随時連絡をする。面会時にも職員が積極的に声かけしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見・要望が出たら、大きな不満やトラブルに発展する前に、早め早めに対処するようにしている。面会時には、管理者・職員がこまめに話しかけるようにしている。家族が面会に来やすい雰囲気になるよう、笑顔での対応を心掛けている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職した職員がボランティアでホームに来たりして、関係を断ち切らないよう努めている。新任職員には入居者がいるいと面倒をみてくれるなど、異動や離職のダメージはそれほど発生していない状況である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	千葉県社協や全国認知症グループホーム協会の研修に参加するほか、業務会議の際などにこまめに勉強会を催している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会やケアマネ研究会に参加し、同業者と意見交換している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ず見学を行い、入居後2週間は職員が集中的に関わりを持つようにしている。自身の役割や楽しみごとを見つけてもらい、ホーム内に居場所ができるよう配慮している。		
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方的にケアをするのではなく、入居者が自主的に行動を起こせるような環境整備を心掛けている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族や本人の希望や意向を聞き取り、入居後一定期間、集中的に把握に努めている。その後も職員の気づきを大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は毎月1回評価と更新をおこなっている。ご家族とは三ヶ月に一回介護計画やアセスメントについて協議して、承認を得ている。見直しに際しては、全職員が参加している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回の見直しの他、変化が生じた場合は、その都度、ご家族に相談の上、見直しをし、申し送りで職員全員への周知を徹底している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在、共用型デイサービスを申請中で、地域の人が世間話に来てくれる開かれたホームを目指している。家族が出来なくなった衣類の買い物や、通院、理美容院の付き添い、外泊など職員が柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康診断は入居者のかかりつけ医で行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現段階では、重度化した場合は、ご家族の意向で入院となるケースがほとんどだが、今後は医師や職員との連携で、ホームとしてどこまで出来るかを見極め、ご家族とも改めて、方針が共有できるようにしていく意向である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや態度はプライバシーを損ねない配慮を心掛け、記録等については扱い方を十分注意するよう、職員に徹底している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が自発的に行動できるような環境を作り出す事に努めている。起こされたではなく、カーテンが開いて光が差し込み、自ら起きてきた・・・そうした環境を作り出すことが最も大切と考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを取り入れて献立を決め、買物、調理、配下膳、食器洗い、後片付けなどを職員と入居者が一緒に楽しみながら行っている。職員はさりげない介助をしながら、自らも食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日指定はない。時間帯は概ね昼過ぎから夜までの間で、自由に入ることができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の状態に合わせ、布巾をたたむ、糠床の管理、防犯係りなど役割を持つことが出来るよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に沿った外出が可能となるよう、ボランティアの力も借りて、毎日のように買い物、散歩、園芸、外食、ドライブなどで出かけられるような支援をしたいと考えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員間でよく話し合い、チャイムを利用して鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害が発生した場合に備えた研修や訓練がされていない。		管理者、職員は災害時に適切な措置を講ずる責務があり、具体的な対処方法、避難誘導等を消防署とも連携を図り、訓練を行うことが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>ホームの管理者が管理栄養士で、栄養摂取や水分確保については万全であり、全職員で共有するようにしている。また、週1回の体重測定で変化に留意している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>車椅子移動を想定して家具の高さや移動のしやすさが工夫され、気になる音や光、臭いなどはない。リビングには、時計、カレンダー、手工芸作品、写真、季節の花などが飾られ、温かみがあり、居心地のよい空間になっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には、使い慣れた物や思い出の品を持参し、ホームで作った作品なども好みに応じて飾っている。</p>		